

学校を拠点とした地域づくり（次世代育成委員の活動等）

中村 美恵

【次世代育成委員】

- ◎地域に暮らす立場で、子育て・子育てのネットワークづくりを推進します。
 - 地域の活動情報などを収集し、地域全体で子育ての課題に取り組む推進役です。
 - 各地域の子育て活動を支援し、それぞれの活動や人材をつなげます。
 - 中学校区ごとに開かれる『地区懇談会』では、児童館等と協力して運営を行い、子どもに関わる地域団体・学校関係者などの参加により、その地域の子ども・子育てに関する課題を話し合い、ネットワークづくりを進めています。
- ◎学校と地域をつなげる役割もあります。
 - 地域のみなさんの知識・経験・趣味・特技を生かして、教育活動に参加してもらう『学校支援ボランティア制度』では、各学校のニーズに応じて地域の活動や人材の情報を提供していきます。

なかの区報 平成 26 年 5/20 発行より

次世代育成委員になると、全体会・研修会・区内を 4 分割したエリアごとのエリア会に出席する。青少年育成地区委員会に所属する。学校・保育園・幼稚園訪問。児童館・U18 プラザのお手伝い。地域内の子育てひろば・子育て支援グループのお手伝い。などの活動をして、毎月報告書を提出していました。

【地区懇談会】 中野区地区懇談会設置要綱、2011 年 4 月 1 日から施行

- ◎中学校校区を単位に設置され、0～18 歳までの子どもと家庭に関わる課題の解決に向けて、学校・地域が連携して取り組みます。
- ◎構成メンバーは、幼稚園・保育園、学校、PTA、青少年育成地区委員会、民生児童委員・主任児童委員、児童館等、子どもに関わる施設や団体で活動している人たちです。

地区懇談会 NEWS より

中野区立第十中学校校区では

メインテーマを『住み心地の良い地域を目指して』とし、年度当初の運営委員会で意見の出た課題をサブテーマとしました。

サブテーマの例

- 子どもたちにこんな力を身につけさせたい
- 地域の中での学校連携

- みんなで考えよう！地域防災
- 考えよう！ルールやマナー
- 子どもたちの遊び方や過ごし方、どうなっているの？

地区懇談会の進め方

- 模造紙にポストイットを貼り付けていくワークショップ
- 『ランキング』というゲーム手法でのワークショップ
- 基調講演を聴いてから、グループ懇談
- アイスブレイク後に、大きな学校区内の地図を囲んでワークショップ
- ワールド・カフェ

第十中学校校区では、毎年2～3回の地区懇談会が開催され、そのうち1回は中学生にも参加してもらいました。話しやすい雰囲気を作るため単に話をするだけではなく、様々な手法を児童館館長から学び、取り入れました。

グループ懇談の最後には、グループ毎に発表をしますが、中学生が大人顔負けの立派な発表をすることが、強く印象に残っています。

ほんの一部ですが、地域の方々と中学生が顔見知りになる機会でもありました。

地区懇談会後に発行される『地区懇談会 NEWS』が出来上がると、各学校への配布を担当しました。

【学校支援ボランティア】

中野区学校ボランティア制度

中野区教育委員会では、地域の人材を学校支援ボランティアとして活用することにより中野区立小学校・中学校及び幼稚園の教育活動の充実を図り、家庭、地域及び学校が一体となり地域ぐるみで子どもたちの生きる力を育むとともに、地域に開かれた特色ある学校づくりを推進することを目的に平成23年9月に「学校支援ボランティア制度」を創設しました。

ボランティアの活動内容

- ・学校教育活動の支援（学校外で行うものを含む）
- ・学校環境整備の支援

コーディネーターの配置

学校と地域や学校とボランティアとの連携を図り、ボランティアの活動を推進するため、コーディネーター（次世代育成委員）を各学校ごとに配置します。

コーディネーター（次世代育成委員）は、学校のニーズに応じたボランティア情報を提供するとともに、学校とボランティアとの調整を図り、実際の活動につなげます

学校支援会議の設置

ボランティア制度の安定的な推進及び学校と地域の連携を図るため、中学校区ごとに学校、次世代育成委員、PTA 他、学校運営に関わる方で構成される「学校支援会議」を設け、区域内におけるボランティア活動状況に関する情報交換、学校が必要とする人材に関する情報共有を行います

中野区ホームページより

◎実際にコーディネートした例

- プールの監視員（小学校・中学校）
- 部活の指導員（卓球・吹奏楽）
- 海外からの転入生の日本語サポート（決まった時間数では十分でない子ども対象）
- 学習支援員
- 心の相談員
- 生涯学習館廃止に伴う学校支援ボランティア団体の活動（校内清掃など）

学校支援ボランティア制度が出来た当初は、学校支援ボランティア登録者名簿を渡され、学校から依頼のあったボランティアとマッチングした方を探す。個人情報満載の名簿を所持していることは負担が重く、また校区によって学校支援ボランティアの依頼件数もかなりばらつきがありました。翌年から名簿は区と学校でのみ管理することになり、見つからない場合は区に依頼となりました。

学校からボランティアの依頼があると、地区委員会や地域の方々の情報をフル活用し、同じ校区の次世代育成委員と情報を共有して学校に紹介していきました。学校に出入りするボランティアを探すことが前提であるため、人選には十分注意をしました。

【要保護児童対策地域協議会】

要保護児童対策地域協議会は子どもの安全を守るための地域ネットワークです。この協議会の利点は法律に基づき関係機関が保護者、本人の了承を得なくても個人情報共有できること、協議会以外にはその情報を漏らしてはいけないことが法律で明記されている点です。解りやすく言うと、その子どもを守り支援するために、必要な関係機関が集まり、連携しチームを作り、情報を共有し、支援方法を検討していく、というイメージです。

中野区子ども家庭支援センター資料より

各校区の次世代育成委員一名が出席します。私は、出席することなく任期を終えましたが、気になる親や子どもさんがいると、学校、同じ校区の次世代育成委員や主任児童委員さんに情報を伝えてきました。

【課題】

●地区懇談会

開催（事務局会議・運営委員会含む）の際、出席される方がほかの団体と掛け持ちや仕事をされている方が多く、日程調整が難しい。

●次世代育成委員を受ける方を探すことが難しい？

保護司や主任児童委員を兼任されている方もいらっしゃる。

●学校支援ボランティアコーディネーターの負担

すぐに見つかることもあれば、何日もかけてあちこちに電話をかけてもなかなか見つからないことがある。どこで諦めるか？